令和5年度　学校評価表

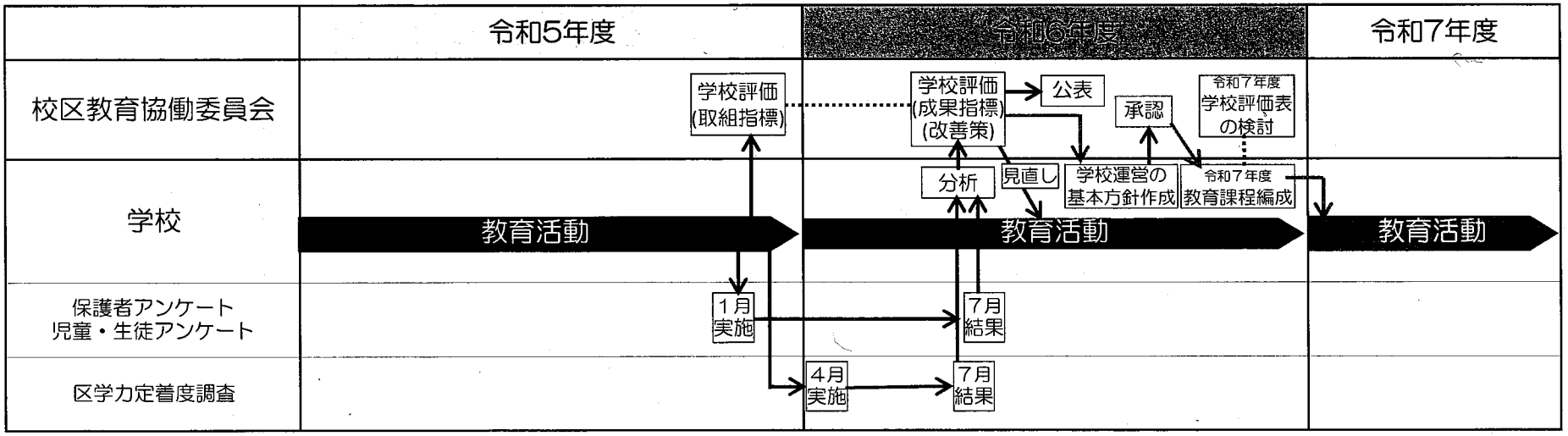
品川区立大原小学校	校長	隈部　洋子
大原小学校校区教育協働委員会	委員長	中村　和弘

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

(1) 学力に関すること。
(2) 人間性や社会性に関すること。
(3) 体力・健康に関すること。
(4) いじめ防止の取組に関すること。
(5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和5年度の学校評価が令和6年度および令和7年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和５年度　学校評価　品川区立大原小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	①確かな学力を定着させる授業を展開する。 ・読む、書く、計算する、について計画的な指導（R：リサーチPDCA）を全校体制で共通実践を通して定着を図る。 ・校内研究として「『基礎タイム』の効果的な活用による学力向上への挑戦」をテーマに、基礎タイムの効果的な内容・15分の流れを確立し、児童の基礎学力の向上を図る。 ②課題解決学習を積極的に取り入れ推進する。 ・主体的に追及できる課題・活動を設定し、児童が粘り強く取り組むための指導・支援体制を計画的に整える。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	国・区学力調査において、平均正答率を上回ることができる。また、各教科のワークテスト平均正答率80%を達成できる。	区学力調査では、各教科で全国平均を下回る結果が多かった。また、全国学力調査の算数では、6年生児童の半数が算数科の学習が分からないと回答している。ワークテストの正答率は80%以上を達成しているので、学び残しへの対策が課題である。	B	日常のワークテストの成果を、学力調査等の結果と結びつけることができるよう、分析の視点を生かし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を引き続き進めるように、校区教育協働委員会で助言を得た。反復学習の工夫や家庭との連携を一層図る。
	「がんばりウィーク」を中心に、個に応じた指導を行う。また調査結果の分析を基に、学力向上委員会が中心となって日常の授業の充実を図り、学年や教科毎に授業展開や指導箇所の焦点化等の工夫する。	がんばりウィークでは、放課後などの個別指導を行い、個々に応じたきめ細やかな指導を展開させた。学力定着と自信向上の両方につながったと捉えている。学力向上委員会が中心となり、基礎タイムなど日常の授業の充実を図っている。	B	
②	児童一人一人が学びのねらいを理解し、自分の考えに自信をもって課題解決学習に臨むことができる。	「学習のきまり・大原スタンダード」を各教室にも掲示し、誰の授業でも学びのねらいが明確になるよう取り組んだ。児童が自分の考えに自信をもって学習を進めることが課題である。どの学級でも、生活指導と学習指導の一体化を図り、学習を進めている。	B	児童の興味・関心を、単元の学習課題の設定時に生かすことによって、児童が自ら学ぶ意欲を高める授業を増やす。学習方法の一つとして、タブレット端末をより一層活用する。同じ学習課題であっても、ノートに書いたり、タブレット端末を活用して学習を広げたりできるよう、日常的に情報リテラシーに関わる指導も並行して行う。
	児童からの「なぜ」「どうして」を基に、学習課題の設定・選択できるようにする。体験や経験を重視し、学習活動に取り入れる。また個々の考え方に触れ、思考の幅を広げるためにICTを積極的に活用する。	児童の興味や関心を生かした問題・課題設定を大切に授業改善に取り組んでいる。１人１台のタブレット端末を活用し、個々の考え、他者の考えとの比較・検討の機会増大や思考の幅を広げることにつなげた。校教協では、児童の思考の幅が広がるような投げかけの工夫」等のご意見をいただいた。今年度の校内研究会では、教師の発問に焦点化した研究を進める。	B	
③	校内研究では、「教師の発問を工夫した日常的な授業改善」を主なねらいとし、児童に対話の必然性を生むような教師の発問を検証することで、児童の基礎学力の向上を図る。	年間を通じて研究授業を計画・実施し、授業改善を図りながら、理科・算数の授業スタイルを構築させた。各教室に常掲している「問題解決学習の流れ」等を作成し、定着に努めた。	B	基礎タイムの取組に関する目的と手法については、校内研究の成果を生かして取り組むが、どのよう成果につながっているのかを、学力調査等の結果とリンクさせ、より一層分析することがひつようであると、校区教育協働委員会で助言を得た。短時間での学習だからこそ、児童が取組に見通しをもち、その目的を自覚して実践を積み重ねられるよう、校内の好事例を引き続き共有しながら基礎学力の定着に努める。
	基礎タイムの効果的な内容の検証・15分の流れの確立を中心にしながら、年間計画や週計画などを工夫して、基礎タイムのスタイルの定着を図る。年間を通して各学年で実践したことを振り返り、改善していく。	朝と昼休み後に15分間の学習に取り組む姿勢が児童に身に付いており、この成果を日常の授業や児童の家庭学習へ生かすために、基礎タイムの効果的な内容の検証について、更に検討を進める。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和５年度　学校評価　品川区立大原小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	○豊かな心を育成する。 ・生命尊重・人権尊重の教育を全校体制で組織的・計画的に推進する。 ・教育課程全般において、コミュニケーション能力を育成する。		

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	自他の心と体を大切にして、相手の立場になって考えたり、誰にでも優しく接したりする児童の姿が、様々な場面で見取ることができる。	市民科の授業や「いいことみつけ集会」等の集会活動などで相手・自分の立場を考える場面を重点的に展開したことで、学年を超えて優しい交流が多くみられた。	A	・地域の良さとして、日常的な異学年交流がある児童だからこそ、目的が明確で意図的な異学年交流を取り入れることを、校区教育協働委員会より提案があった。学校では、市民科での異学年交流を基盤に、今後、異学年による教科学習や探求的な学習場面設定について、検討を行う。 ・人権への配慮を、計画的、組織的に継続して取り組み、保護者や家庭へも取組を情報発信する。
	各行事や市民科集会、異学年交流（1年生のお世話、2学年合同遠足等）での自他に目を向けた指導工夫や、「さん」付けの徹底、受動・傾聴を重点とした個々への指導を、組織全体で展開する。	行事や集会では、異学年交流を積極的に取り入れ、様々な活動で自他に目を向ける児童が多くみられた。また、市民科の授業の中で、自他に目を向ける活動を多く取り入れ、その中でも「さん」付け、人の話を最後まで聞くことの習慣化を徹底したことで、様々な活動で自他に目を向ける児童が多くみられた。	A	
②	「4つのあ」を教職員・児童の合言葉にして、挨拶・礼儀・マナーやルールの大切さについて、教育活動全般において指導・支援を重ね、実践につなげることができる。	声をかければ挨拶ができる児童は８割以上でほとんどであるが、自分からはつらつと、という児童は３割程度である。まずは大人からの挨拶を率先して行うことで姿勢を示しつつ、礼儀やマナー、ルールなどについても粘り強く働きかける。保護者にも協力を依頼し、質の高い生活習慣についての習慣化を果たしたい。	B	・大人が挨拶の手本となるよう、継続して取り組んでいるものの、児童の自主的な挨拶には課題が多い。 ・CSデイでも、児童と委員が意見交換をする機会を設定し、児童の主体的な行動を促す。 ・今後は、より一層児童の思いや考えを生かし、大人の指導としての挨拶と、児童が共同生活を送る学校の雰囲気づくりとしての挨拶の両面を達成できるよう、児童に働きかけを行う。また、学校での児童主体の取組として、学校だより等を生かして周知を図る。
	「いいことみつけ集会」や代表委員会集会での周知、校外学習時の出発式・帰校式の場面、朝の会や帰りの会での児童同士での見取りや励行を通して、学期毎にクラスで全員は認められ、褒められる場面を設定する。	様々な児童が活躍できる場面を多くの学習活動、学習場面を設定し、児童全員が認められ、褒められる環境を整えて児童の自己肯定感のアップに努めた。引き続き、一人一人の自己肯定感を高め、学校における心理的安全性を高めることにつなげる。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和５年度　学校評価　品川区立大原小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	○組織的・計画的に体力向上・健康保持と増進に取り組む。 ・日常的な運動の場面を設定し、参加率向上に向けて工夫した取組を行う。 ・コオーディネーショントレーニングの継続により、体幹強化・姿勢保持につなげる。 ・食育活動を充実する。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	児童の8割が、日常的な運動の場に参加することができる。	朝スポ・中スポ・スポトラ・縄跳び教室など、全校児童で取り組む活動を、感染拡大防止対策の工夫を講じながら実施することで、昨年度以上に運動する機会を増やすことができた。	A	・「朝スポ」は、校区教育協働委員会で、大原小学校の誇るべき大切な取組の一つという評価を得た。 ・充実した活動を展開できるよう、「スポトラ」や「ドッジボール大会」等、児童の日常的な運動とのつながりをつくる。
	「朝スポ」「スポトラ」「なわとび週間」や毎日の外遊び・体育館遊びに児童の8割が自主的に参加できるよう、活動内容やカード作り、教員も一緒に取り組む等工夫し、参加率向上につなげる。	実施期間中は、学年の枠を越えた交流を図りながら、思い切り体を動かす姿が見られた。ボランティアさんが毎日定期的に来校し、一緒に遊んだりすることで、安定した参加率となっている。	A	
②	コオーディネーショントレーニングを年間を通して継続して実践し、体幹強化や授業時の姿勢保持・集中力向上につなげる。	年間を通したコオーディネーショントレーニングの継続実施により、体幹強化や授業時の姿勢保持・集中力向上を図った。課題のある児童も多いが、姿勢保持等についてはさらに重点的に取り組む。	A	体幹を鍛えるためには、日常の習慣化が必要不可欠である。現在、全校集会時や授業の始まりと終わりの際の実践が徹底されてきた。児童による集会活動時も、児童が自ら意識し、全体に声がけを行っている状況が見られる。授業での集中力につながっていることを児童が実感することができるよう、その手立てを教職員で検討する。
	コオーディネーショントレーニングを全学年の体育の授業に位置付け、年間を通して継続して実践する。授業の始まりや終わり、話を聞く場面では、「腰を立てましょう」と立腰を促す指示を共通実践し、習慣化する。	体育の導入や終末などにコオーディネーショントレーニングを年間を通して取り入れ、児童の意識等も定着してきた。「腰を立てましょう」と立腰を促す指示を全教員全活動で共通実践を徹底し、習慣化している。今後、教職員も入れ替わる中でも、取組が持続できるよう、教職員間での理解啓発を行う。	B	
③	給食指導や市民科・生活科を中心に、家庭や地域の協力や働きかけを通して、望ましい食生活を習慣化させる。	生活科を中心に、野菜の皮むき等の体験活動を取り入れ、それが給食の食材になっていることや、日々の給食指導により望ましい食生活を習慣化できた。	A	食生活の習慣化や、食育の充実については、学校での取り組みに加えて、PTAや家庭との連携を欠かすことができない。今後、PTA主催の給食試食会を再開し、栄養士からの講和を実施することで、児童の望ましい食生活の実現を図る。
	担任と栄養士、養護教諭がTTで食育の授業を行い、取り扱った食材を給食で調理し味わう活動を取り入れる。またPTAと連携し、栄養士を講師とした講演会を実施し、家庭の関心を高めさせる。	食育の授業については、学年の実態に即して組織的に計画し、実際の食材に触れたり、栄養士からの講話を受けたりしながら望ましい食習慣の習慣化に努めた。感染症への対応として、給食試食会は実施できなかったが、令和6年度には実施を計画している。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和５年度　学校評価　品川区立大原小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標	○生命尊重教育・人権尊重教育と関連したいじめの根絶に向けた取組を推進し、教職員・児童・保護者・地域でいじめを絶対にゆるさない・見逃さない、という共通理解を図りつつ、迅速かつ誠実な対応が図れるよう組織を構築し、密な情報交換を行っていく。 ・学校生活全般において、教職員が児童との関わりを広く保ち、些細なことも確認し合える組織体制を構築する。 ・ハイパーQUテストを通した、学級の状態や個人の状況を把握により、いじめを未然に防ぐ方策を展開する。 ・SCや教育委員会との連携について強化する。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	生命尊重教育・人権尊重教育と関連させ、「いじめを絶対にゆるさない・見逃さない」という意識を100%の児童がもち、児童の様子や変容を逃さずに捉え、いじめ対策委員会による迅速な組織対応が図れるようにする。	「いじめをゆるさない、見逃さない」という意識を常にもち、態度や行動につなげていけるよう児童と教職員が一体となって取り組んできた。定期的な情報交換と突発的な事態対応のどちらにおいても迅速かつ組織的に連携を図り、見逃しや放置という過失を防ぐことにつなげた。今後、いじめ重大事態の対応等、より一層の理解啓発と組織対応を図る。	B	・学校いじめ対策委員会を定期開催し、各学級、学年での児童の様子を共有するだけではなく、具体的な対策を検討している。全教職員でのいじめ重大事態への理解や、品川区全体でのデータ活用にも取り組みながら、組織的対応の一層の充実を図る。 ・学級担任のみならず、校内の教職員が児童理解に努め、対応の共有を図ることで、組織的な対応を迅速に行うことを継続する。そして、いじめ対応については躊躇することなく役割を明確にした解決行動を最優先する。 ・いじめ行為へのシンキング・エラーを、児童、保護者、教職員が減らすことができるよう、区主催研修で学んだことを共有する。学校公開の場で、全学級が市民科の授業として「いじめ防止」をテーマにした実践を行う。 ・目安箱は、児童へ複数回周知していることで、なかなか相談しにくいと感じた児童が利用機会がある。このような児童が安心して過ごす時間が増えるよう、ハーツや心理士と連携しながら取り組む。
	教職員はすすんで児童と関わりをもち、一緒に遊んだり、話したり、様子を観察したりしながら、誰かを避けたり、悪口を言ったりする場面があった際に逃さず反応し働きかけるようにする。それを管理職にすぐに報告させる。また毎週の学年会や生活指導夕会を開催し、細やかな情報交換を行う。	「生活アンケート」で児童からの訴えを担任や管理職が直接聞き取りし確認した。学年団を結成し、学年・クラスの枠を超えて、担任以外の教員が各クラスに携わっている。児童と保護者にも周知し、相談や対応の幅を広げることで迅速・組織的な対応へとつなげる。週末は学年会で情報交換を行い、内容を全教職員に周知することで現状把握や対応共有ができた。生活指導夕会も、毎週金曜日に実施し、組織的な状況共有を継続している。	B	
	全学年でハイパーQUテストを実施し、児童観察と児童の実態のズレを多面的に分析する。結果を保護者にも伝え、家庭と連携を図る。また市民科等の授業で、個々のソーシャルスキルや自尊感情を高めさせ、未然防止につなげていく。	児童の学級満足度や学校生活意欲の結果から、個々の様子と現在の学級集団の状況との両方を把握することができた。また、結果を組み合わせ、個々と全体の多面的な理解につなげることができた。結果を保護者と共有し、家庭と学校が連携して、個々に応じた手立てを講じながら指導・支援を重ねていく。また児童観察や情報共有の場面で活用しながら、いじめや不登校の未然防止に直結させていく。	B	
	目安箱の周知・確認を通して、SCや区巡回相談員、ハーツとの連携を強化し、児童からのどんなSOSにも、組織的に対応できるようにする。	目安箱について全児童に周知し、DVD資料「SOSの出し方」を視聴させた。自分が困った時の対処法について学ぶと共に、友達が困っていた時に放置せず、実際の行動に移すことの重要性を理解させ、実践する。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和５年度　学校評価　品川区立大原小学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標	○コミュニティスクールの特色を生かし、「地域を愛し、地域に愛される学校」づくりを推進する。 ・「校区教育協働委員会」「ふるさと大原支援本部」との協働・協力の下、人と人とのつながりを大事にしつつ、教育活動の広がりと充実につなげる。 ・これまでの地域の方々との協働活動を継続しつつ、品川区教育委員会の施策「しながわ学校2020レガシー」の活動をCSに位置付け、展開させる。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	「地域を愛し、地域に愛される学校」を目指し、コミュニティスクールの活動を充実させ、地域の方々との関わりを深める。	地域の方々との交流活動を常時活動や各行事等で展開することができた。環境整備では正門・校庭門前の掲示板装飾や校内環境整備（階段・廊下）で心温まる装飾を作成していただいた	A	・ボランティアの皆さんのお力添えにより、学校内外の掲示や情報発信を定期的に行うことができた。 ・CSが根付き、その活動も安定したものとなっているが、地域の方もボランティアの方も変化しつつある。その中でも、持続可能な取組となるよう、取組の中身とその成果を、児童の姿で伝え、情報発信を続ける。 ・「しながわ学校2020レガシー」の取組を基に、児童のボランティアマインドの醸成や障害理解につながるよう、校内掲示板や体験的な学習の機会を設定する。 ・金管バンドクラブは、卒業生や地域人材の協力を得て、一緒に楽しみながら音楽を奏でる活動となってきている。必要な楽器を揃えながら、計画的に取組を活性化させる。
	「朝のスポーツ健康タイム」「公園花壇花苗植え活動」「走り方教室」「地域防災避難所訓練」「金管バンド指導補助」「地域の歴史を聞く会」などで校区教育協働委員の方々やボランティア、地域の施設や町会の方々と協働し、人と人とのつながりを重視した教育活動を展開する。	各取組では、地域の方々、地域のボランティアの方々、町会の方々との深い協働でお世話になった。一方で、公園花壇花苗植え活動については、町会へのさらなる周知や、地域防災避難所訓練の今後のあり方については検討が必要である。地域の方と子どもたちが共に行う取組や活動などを、現状に合う形で改善し、持続的な取組になるよう検討する。	A	
	しながわ学校2020レガシーで取り組む「オリパラ朝顔栽培活動」「パラ・アスリート交流・体験活動」について、地域の方々との協働作業や講演会召致、掲示板やHPでの発信等を通して、コミュニティスクール活動に位置付けていく。	CSを活用した活動について、ボランティア派遣や地域の方々との協働作業などでお力添えをいただいた。また、年間を通して、定期的な校内環境整備に携わっていただくことができた。コミュニティスクールの活動を、掲示板やHPでの情報発信も行うことができた。	A	
	金管バンドクラブについては、児童の参加のみならず、地域の方や保護者の方との交流を、練習や発表会その他様々な取組で行いながら、活動を活発化させる。	昨年度よりも参加児童が増加し、休み時間や放課後等も、自主的に練習に取り組む姿が日常的に見られる。地域の方や保護者も交流しながら、今後活動を一層活性化させるために、必要な楽器の準備も区への申請や計画的に進める。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成